

科目責任者 石橋 賢一 (病態生理学教室)

## ■ 教育目的

病態生理学は、主要な疾患の病態を学ぶことで、病気に対する総合的な理解を深めることを目的とする。なぜそうなるかという理由を考えて病態を理解するには解剖、生理、病理の知識が必要である（考える病態生理学）。膨大な臨床医学の知識は興味をもって理詰めを理解しなければ習得するのは難しい。図や写真などビジュアルな情報を活用することが助けになる。さらに問題解決能力をつけるために症例解析演習を授業のグループ学習でおこなう。詳細はホームページに掲載する。<http://www.my-pharm.ac.jp/~kishiba/sub5.html>

## ■ 学習到達目標

1. 主要な症候の原因疾患を列記して鑑別することができる。
2. 主要な疾患の原因と病態生理を説明できる。
3. 主要な疾患の主な治療法を列挙できる。
4. 医療人として患者を救命できる知識をもつ。
5. 患者の問題点を列挙できる。

## ■ 準備学習（予習・復習）

予習：毎回授業前までにマイキャストに指定された過去の授業ビデオを自分のペースで視聴しておくこと

復習：授業で話し合った内容も含めて次の授業前までに課題に対するレポートをマイキャストに電子媒体で提出する

## ■ 授業内容

本年は講義は行わないで、過去の講義ビデオと指定教科書を活用して、自己学習とグループ学習を行う（反転授業 flipped classroom）。あらかじめ指定された3名1グループで指定された座席に並んで座る。臓器別に毎回課題が出されるので3人で話し合いながら解いていく。疑問があれば授業中に教科書やネットで調べたり、巡回している教員に質問することも可能である。教員は解答は提供せず、調べ方、考え方のヒント（アンサーキー）を提供するのみで、解答を見つけるのは学生である。学生同士で教えあうことも重要である。グループ間でも話し合うことも可能である。授業が終われば各自で解答を電子媒体で作成し、次の授業までにマイキャストに提出する（授業中に作成することも可能）。

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	病態生理総論・腫瘍学	病気の原因、疫学、診断法、症候学、検査法、予後、治療法	C14 (1) -1
2	循環器 1	心不全、不整脈、虚血性心疾患	C14 (1) -2
3	循環器 2	高血圧症、血管疾患、高脂血症	C14 (2) -2
4	血液	白血病、止血異常、貧血	C14 (2) -3
5	消化器	胃腸疾患、肝疾患、胆石症、膵炎	C14 (2) -4
6	呼吸器	肺炎、肺結核、肺気腫、気管支喘息、肺癌	C14 (3) -3
7	腎臓	腎不全、透析、腎移植、ネフローゼ症候群	C14 (3) -1
8	泌尿器・産婦人科	前立腺疾患、異常妊娠・分娩、乳腺疾患	C14 (3) -2
9	内分泌	下垂体・甲状腺疾患、副腎疾患	C14 (3) -4
10	代謝	糖尿病、痛風、肥満	C14 (3) -5
11	免疫、骨、関節	膠原病、アレルギー、骨粗しょう症	C14 (4) -5 C15 (3) -2
12	神経内科	脳血管障害、変性疾患、てんかん、頭痛	C14 (3) -6
13	精神科	統合失調症、躁うつ病、不安障害、心身症	C14 (4) -1
14	皮膚、感覚器	皮膚疾患、眼疾患、耳鼻科疾患	C14 (4) -2、3 C14 (4) -4
15	救急・感染症	小児科、中毒、抗生物質	C14 (3) -5 C14 (4) -4

## ■ 授業分担者

1-7、15: 石橋賢一 (病態生理学教室・教授)、 8-14: 田中靖子 (病態生理学教室・助教)

## ■ 成績評価方法

学期末試験 60%、レポート・出席 40%で評価して 60/100 以上を合格

## ■ 教科書

ホームページ上で指示する <http://www.my-pharm.ac.jp/~kishiba/sub118.html>

## ■ 参考書

「今日の診療」(MY-PORT > 医療人 GP サイト内)

## ■ その他

毎回マイポートのアンケート機能で答える宿題がアップされるので締め切りまでに回答すること